



令和5年12月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

発表会の総練習の日は0～5歳児クラスが一堂に会し、それぞれが観客となって3・4・5歳児クラスの劇や歌を観ました。3歳児クラスの劇にクマが登場した時のことです。わらべうた『くまさん くまさん』の曲が聞こえると、最前列に座っていた0歳児がおもむろに片足を上げました。日頃、この曲の歌詞に合わせて体を揺らしたり足を上げたりしているので、劇中の曲と遊びが重なったようです。舞台ではなく観客側を向き他クラスの子どもたちと“楽しいね”の気持ちを分かち合うように手を叩いて喜んでいる子もいます。物語や台詞を理解して楽しむことはまだ難しいですが、傍に安心できる保育士が居て、お兄さん・お姉さん達が居て、いつもより賑やかな空間に身を置くことで0歳児なりに楽しい雰囲気を感じているように見えました。日常が豊かであることの一つに行事の取り組みがあり、発表会当日まで演じる側、観る側それぞれの形でどのクラスも関わりながら園全体で盛り立てています。

0歳児クラス6名は、全員が満1歳を迎えました。「日に日に」という言葉のとおり昨日より今日、今日より明日という具合にめざましい成長が見られ、空腹感、眠気、快、不快等の生理的欲求だけではない感情が表情や行動につぶさに表れるようになりました。子どもたちの成長の姿は、保育の仕事への喜びを何倍にもしてくれます。全てのクラスの子どもたちに対して発達の見通しを持って関わることで、これから迎える成長の道筋に愛情を込めて手を差し伸べられるよう、職員間の連携を一層強めていきます。



生活発表会（3・4・5歳児クラス）

中旬 身体計測 避難訓練

\*保育園は12月29日（金）～令和6年1月3日（水）まで  
年末年始のお休みになります。

“ワスッ”と笑える

つぶやきの部屋

### 1歳児クラス（ちゅうりっぷぐみ）

円筒形のブロックを2個つなげて押し入れに入ると、壁に向かってブロック越しに覗きながら「ソウ いた」「あっ、鳥がいた」「ダンゴムシ 見えた」と友達と一緒に楽しんでいます。ブロックは『双眼鏡』のイメージのようです。遊びは翌日も続き「コウモリ いた」とまるでそこに本物が居るような会話でした。



### 2歳児クラス（たんぽぽぐみ）

遊歩道に朝顔がしぼんで落ちていた時の会話です。  
「あ、おはなが さいてるよ」  
「なんの おはなかなあ」  
「ちいさくなってるね “しばみ” じゃない」  
「ほんとだ。“しばみ” だねえ」  
子どもたちの会話では「つぶみ」ならぬ「しばみ」になっていました。知っている言葉だけれど少し言い間違るところが2歳児らしくて可愛いなと感じました。



# どんな役にも変身できるよ

～ 『生活発表会』に向けた取り組みの様子 ～

## 3歳児クラス（さくらぐみ）

『おおきなかぶ』のペープサートを使って遊んでいます。物語を覚えている子どもたちは「次は孫が出てくるよ」「犬を呼ぶんだよ」と楽しんでいます。「うんとこしょ どっこいしょ」がお気に入り、生活の中でも、衣類かごから洋服を出すなど何かを引っ張る場面では「うんとこしょ どっこいしょ」と言っています。それを見ていた友達も一緒になって「うんとこしょ どっこいしょ」と息を合わせ、大合唱になりました。さくら組の『おおきなかぶ』にはオリジナルとは少し異なり、リズム遊びでも馴染みがあり動きをイメージしやすいクマやうさぎが登場します。おじいさんは杖をついているように歩いたり、ねずみは体をかがめて歩いたりして役になりきっています。

今後も、保育士や友達と一緒にイメージ豊かにのびのびと表現することを楽しんでいきます。



## 4歳児クラス（すみれぐみ）

劇遊びの度に、その時やりたい役を選んで楽しんできました。『どろぼうがっこう』の劇遊びでは「可愛いドレスを盗みたいから泥棒がいい」「かっこよくて強いから警察になりたい」と役を想像したり「ぬき足 さし足 しのび足…」と保育園の廊下をそ〜っと歩くなど、イメージを広げながら遊んでいます。ある日、子どもたちが泥棒の衣装を身に着けて他クラスに行き「泥棒だぞ。お金を盗みに来た」と言うと、保育士も「大変だ。お金はありません」と遊びに参加します。慌てる保育士の姿を見て“泥棒役が大成功”と子どもたちは満足の笑みを浮かべていました。泥棒学校のくまさか とらえもん校長になりきっている子がいました。友達から「〇〇ちゃん、すごいね。台詞の言い方上手だね」と褒められると誇らし気で、益々自信を持って演じています。

劇遊びを通じて友達や保育士に認められるという経験をしてきたことが自信となり、表現する楽しさにつながっています。



## 5歳児クラス（ひまわりぐみ）

初めてエルマーの物語に触れた時から物語の世界に興味を持ち、毎日少しずつ読み聞かせてもらうことを楽しんできました。物語から感じたワクワクした気持ちが遊びにもつながり、絵本に登場するりゅうの『ボリス』を積木で作ったり『どうぶつ島』の地図を描いたりして楽しみました。発表会の演目も「エルマーの劇がいいと思う」と満場一致で決まりました。「りゅうの絵を描いたらどうかな」「お話に出てくる道具はブロックで作りたい」と、子どもたちから様々なアイデアが出てきました。小道具作りをしている時には「やっぱり作るのが難しい。もうあきらめたい」という声があがることもありますが「一緒にやろう。協力すれば出来るよ」と友達が寄り添ってくれることで、一緒に考えたり相談しながら準備を進めています。台詞を一人で言うことに不安を感じている友達を「大丈夫だよ、ひまわり組だもん」と励ましたり、小声で台詞を教え合ったりしています。

自分のことだけでなく周りの様子や変化も気にかけてながら「今の台詞上手だったね」「動物っぽく見える」など、一緒に取り組む喜びを感じている子どもたちです。友達と考え、意見を交わし、協力し、励まし合いながら大好きなエルマーの世界を楽しんでいます。